

小別沢新聞

2

February 2022

#011

TAKE FREE

発行：札幌市農政部
(TEL 211-2406)
編集：NPOあおいとり
(TEL 664-5148)
デザイン：3KG
(TEL 300-3333)

郵送による定期購読を希望される方は、札幌市農政部までご連絡ください。

小別茶話会を終えて

第5回

2022年1月18日開催

新年早々の1月18日(火)午後4時から小別沢会館にて行われました。参加者は6名(町内会員(特別会員含む)4名、その他2名)でした。

はじめに札幌市農政部の石堂係長より、里山活性化推進事業について、あらためて包括的な主旨や経緯の説明がありました。事業の要点は、市民主体の森林と農地の一体的な保全・活用の仕組みを『里山』というイメージで作っていくこと。森林については、国の制度(森林環境譲与税)を活用した管理・保全を行い、そこが豊かで魅力あふれる空間となることで地域全体の価値が上がるであろうこと。

一方で、農地の今後の方向性としては、引き続き営農を基本として、多様な営農形態や農地活用を喚起すること。そして異業種間や地域内外の人々の交流・連携により、地域内の様々な活

動(事業)のさらなる発展や新たな取り組みが生まれていくことを目指しているとのことでした。里山としての地域の将来イメージは市として例示していませんが、あくまで地域内外の関係者の意向が基本となるので、引き続き協議・検討の必要があります。市としては、森林については整備を開始し、森林資源を活用できる機会をつくるとも



に、小別茶話会や小別沢新聞の発行を続け、みなさんの様々な活動や地域の将来を考えるための支援をしたい、としています。また、事業の進め方として、今後の課題は、多様なプレーヤーの発掘やその連携・協力関係、行政などとの連絡調整などをまとめて担い、里山の諸活動を民間側から束ねていくようなマネジメント機関の存在が必要なのではないかと、とのことでした。その後、森林整備の経緯や方

向性についての説明が行われたのち、参加者と市、林業者との意見交換が行われました。参加者からは「今回の森林整備の計画は、里山を強く意識した内容にするのが良いのではないか」、「森林整備の計画は事前に地元関係者に対して説明の場を設けて欲しい」などといった意見が出されました。

また、林業者からは10年間の施業予定についての話もありました。具体的には、今回の整備予定定範囲18ヘクタールの中に、できれば延べ4,000メートル程度の森林作業道をつけることを検討していること。これは一般的には高密度の部類になりますが、小別沢の地域性にあった密度だと考えていること。間伐に関しては10年間の契約期間中に二周



する内容を想定しているという内容でした。

今回の小別茶話会についても「茶話会報告書」を別紙で作成しております。詳しく知りたい方は、ぜひそちらもご覧ください。里山活性化推進事業のことや、森林整備のことなど、疑問質問等はお気軽に札幌市農政部にお問合せください。

小別沢のあのヒト このヒト

株式会社ルース研究所 代表取締役
篠原康幸さん



—— 経歴を教えてください ——

千葉県出身です。28年ほど前に、薬剤師として薬の研究を行うために北海道へやってきました。研究に携わるうちに原料から作りたいたいと思うようになり、縁あって小別沢に自社農園を設けるようになりました。

—— どんなことをされているのですか？ ——

小別沢では、農園で様々な薬用植物を育てています。そこで

収穫した植物の有効成分を抽出し製品に加工する、という一連の流れを全て自社で行っています。抽出した成分の分析・研究も行っています。また、西18丁目駅の近くにショップ(有会社社エッセンシア)を構えています。小別沢で収穫した薬用植物を原材料にした、機能的食品や香水・化粧品・ハーブティール・精油などを取り扱っています。それ以外にも、漢方薬の処方も行っていて、予約制ですが健康相談も承っています。

—— 農園のことを詳しく教えてください ——

農園ではハマナスをメインに栽培しています。ハマナスは北海道各地で昔から自生してきた植物で、バラの仲間になります。収穫したハマナスの花からはいくつかの抽出方法によって、様々な成分が得られます。例えば、抗酸化作用に優れているポリフェノールやバラ水、精油、ミネラルなどです。これらは先述の製品の原料になっています。そして、成分が全て抽出された花は畑に返して肥料にし、循環型の農業をしています。



写真提供：篠原康幸さん

—— 小別沢とこれからどうやって関わっていききたいですか？ ——

シードバンクという言葉を知っていますか？ 自社敷地内の森に生い茂っていた笹を手で刈り取ったところ、今まで何年も笹の下に眠っていた潜在植物が芽を出したのです。非常に興味深かったです。このように植物の種が地中にあるというのは、小別沢の魅力の一つだと思います。この冬から始まる森林整備事業とも協力して、林内に残される枝葉の活用などをして、豊かな地域づくりと、環境が持続するような森づくりに関わっていきたいです。

また、サロンのような、地域運営に関わる情報交換ができるような場ができればいいと思います。都市部と距離が近いということから、森や農地を舞台にした学びの場としてのポテンシャルがあることも小別沢の魅力です。全国的に「里山」が注目されてきているように感じますし、小別沢は安心して豊かに生活できるモデル地域となり得るのではないのでしょうか。

むかしと いまの 小別沢 #5

小別沢では昔、地域内で協力し年に何度か恒例行事がありました。そのひとつが「そりすべり大会」。会場は「伊部山」、今の伊部農園の

斜面でした。子供も大人も関係なく、そりすべり、パン食い競争、みかん拾い、雪中かけっこなどを全力で楽しみました。



鎌田愛 かまだ・あい

札幌に生まれ育ち、現在は養護教諭として小学校に勤め、みんなが親しめるイラストを用いた保健だよりを作成するなど、保健室で日々奮闘中。夢は、いつか家族のコミックエッセイを出版すること。



【伊部さんに聞いた昔話】

「足立さんが林業に関わったきっかけは？」
 26歳のころ、「森の中で働く」というイメージから林業という仕事にたどり着きました。最初は滝上町の林業会社に就職し、林業についてイチから学んでいきました。そこから独立し、今

市の公募により決定した小別沢の森林整備を担う林業者である、outwoods 足立成亮さんにお話を聞きました。



写真提供：outwoods (山内麻由美さん)

森林整備がはじまります

「なぜ「道つけ」が必要なのですか？」
 森という空間に人間社会が関わっていく以上、そこに入るための装置(道)がインフラとして必要です。森に入ってこそ、人

に至ります。自分の山を所有しているわけではなく、私有林や市町村林の管理経営に関するアドバイス、間伐や森林作業道作り(道つけ)の請負などをしていきます。

「足立さんはどんな林業を得意とするのですか？」
 一言で表すのであれば、「環境保全型林業」です。北海道では大規模に行う林業が主流です。一方で、私が行っているのは非常に小規模で

す。北海道において、このような規模感で行っている木こり(林業事業者)はごく僅かですが、小規模林業に向いている森林もあるため、各方面から声をかけてもらうことが増えてきました。



「今後の予定について」
 冬のうちは小別沢の山を具体的に歩き調査を行います。10年という長期スパンでの契約なので、今年の冬は一生懸命この土地の山を知りたいです。春になったら調査結果や今後の施業予定をご案内できる予定です。

と森の両立の仕方を考察することができ、その結果を検証することができ、道ができることで、普段、森を歩かない人、歩けない人と専門家たちが一緒にその森に入ることができるようになります。机上の写真や資料ではなく、実際に「見て、感じて、知ること」の共有が実現することで、現代社会と森、すなわち人と環境、が正しく共存できる道筋が描けるようになるのでは、と考えています。そのため、第一歩が「道つけ」なのです。

「市からのお知らせ」
 2009年に(株)グリーン滝上に入社、林業のイロハを学ぶ。その後、2013年にoutwoodsの屋号を掲げフリースの木こりとして独立。現在は森林環境に負荷をかけない環境保全型林業を理念とし、多種多様な森林施業とそこから生まれる森林の姿を提案している。また、森と人や街を近づける取り組みも精力的に行っている。

第6回 小別茶話会

日時：2月21日(月) 16:00-17:30

場所：小別沢会館 (札幌市西区小別沢49)

内容：「里山事業の今までとこれから」について他

※冬季は駐車場がありません。ご不便をおかけしますが、ご理解願います。

6〜7月くらいには道つけをはじめたいこうと予定しているのですが、みなさんに現地案内を行いたいと考えています。長期的には、10年の間に間伐を2周したいと考えています。

里山事業のスケジュール



